

H28年度 学校に関する自己点検・自己評価結果と今後の改善策

点検項目	評価点	点検結果・今後の課題・改善策等
1. 教育理念・教育目的・目標	2.96	法令遵守に則り、本校が目指す看護学生育成の教育理念・目的が便覧・募集要項等に掲げてあるが、社会のニーズや医療の変化に対応しているかなどの見直しも必要である。 また入学時及び必要時内容の説明をし理解につなげているが、学生の理解に繋がる記載内容となっているか再検討が必要と考える。 教育目標は、卒業時に到達して欲しいレベルを明確にし、立てている。 教育目標と内容が一致しているか常に確認する必要がある。
2. 教育活動	2.79	カリキュラムの改正点・意図を盛り込み、看護師として育てたい学生と学修の到達を関連付けて教育課程を編成している。しかし教育課程編成から7年が経過し、科目によっては社会の現状・変化を見据えた検討が必要である。 学生には年間授業計画を便覧で知らせ、月毎の授業予定表を配布しているが、急遽日程変更する場合があります、学生に負担をかけない方法を考えていく必要がある。 また、授業同士の関連性や重複をなくし、効果的な授業内容となるようマトリックスを作成し共通認識している。 授業形態・展開については、各講師が工夫をしている。また、効果的な学修のための教員間の協力体制がとれるよう努力している。授業・実習の評価方法については、多様な評価方法を学習中である。 効果的な学びの授業展開・評価となるよう検討が引き続き必要である。 テスト後の学生からの授業評価は、講師に伝え次年度に活かすよう活用している。 1つの科目が多数の講師によって細分化している科目もあるので、単位認定の評価基準が学生に十分理解でき、学生にとって不利にならない公平性への意識を教員が常にもっている必要がある。
3. 経営・管理過程	全体 2.74	
3-1) 財政基盤、施設設備の整備	2.58	教育の質を落とさないことを前提として、限られた財源の中で学校運営、教育内容の充実、設備の整備を努力している。28年経過した備品・設備は、修繕・買い替えが必要となるが市の財政と相談しながら進めている。 教職員にも必要な予算要求を投げかけると共に財政状況を理解してもらい働きかけをしている。 将来構想を見据えたあり方検討会での検討も必要である。
3-2) 学生生活の支援	3	入学時より奨学金制度、学生寮等の情報提供をしている。また、スクールカウンセリングを週1回設置している。 担当による最低年1回の面接の実施、必要時個別相談・保護者への情報提供等をし、面接記録に記載して必要な情報は共有し、学校側が一貫した対応がとれる学修支援体制をとっている。 社会人への経済的支援として、平成27年度に職業実践専門課程の認可をとった。平成30年、再更新をして支援体制を継続していきたい。
3-3) 養成所に関する情報提供 養成所の運営計画と将来構想 自己点検・自己評価体制	2.45	・学生保護者へは成績送付や問題がある場合は連絡をし、学生の理解支援に繋げている。 ・看護学校あり方検討会を今年度立ち上げ、今後の方向性を検討する機会をもったが、今後継続・発展させることが課題である。・自己点検自己評価指針が出され学則に追加し体制を整え、評価する資料の確認作業を行なった。評価したことを教育活動に活かし公表する体制が整っていないことが課題である。
4. 入学	2.9	入学試験検討委員会で検討改善し、入試委員会で一貫した対応をしている。 専門職業人として成長できる人材を選抜する為の方法等、今後も検討が必要である。
5. 卒業・就業・進学	2.53	・卒業の到達については、学生便覧に則り進めており、教育目的目標に対応した教育内容が卒業時の到達である。国家試験の合格状況、就職、進学結果等で分析している。 ・主たる就職先での情報は把握できているが他病院に就職した卒業生の状況やその後の活動状況については把握できていない。
6. 地域社会	2.7	学校祭や講演会では支障のない範囲で市民に発信し、地域への貢献体制を整えている。 また、看護教員養成、実習指導者養成等の人材育成に協力している。 さらに学校を理解して頂くようホームページ等の工夫充実が必要である。
7. 国際交流	1.94	国際看護を科目設定し、実体験のある講師を選定している。 海外や多様な学生からの受験受け入れができるよう、受験資格審査申請手続きの体制を整えている。 国際的視野を広げる書籍やインターネット設備の充実が課題である。 また、異文化交流や講演会等異文化理解に向け考えていく必要がある。
8. 研究・教育力の向上	2.19	研究活動のための時間を保障するシステムを作ったが十分活用されず、研究に価値をおく土壌が培われていない。 専門学校としての研究活動をどのように捉えていくのか、時間・財源・環境の整備が課題である。 自己研鑽の意欲はあり、研修へ個人的に参加し教育力向上は図っている。 今後授業演習等の成果をまとめ、次に活かしていく努力を行なっていく必要がある。

学校自己点検評価点

